

総合周産期母子医療センター NICU・GCU



kyoto university hospital

NICU

NICU ・ GCU とは？

NICUは新生児集中治療室
のことです

- ・ 予定日より早く生まれた赤ちゃん（早産児）
- ・ 体重が小さく産まれた赤ちゃん（低出生体重児）
- ・ 病気の治療が必要な赤ちゃん

などが入院している
集中治療室です。



どのような子が入院しているの？

早産児 **低出生体重児**
(出生した週数が37週未満) (出生体重が2500g未満)

先天性心疾患児 **外科的（手術）治療が必要な児**
(鎖肛、横隔膜ヘルニアなど)

GCUは新生児回復室
のことです

医療的介入が少し
必要な赤ちゃんや、
おうちに帰る準備をして
いる赤ちゃんが
入院しています。

退院に向けた育児指導
なども行っています。

早産児とは

赤ちゃんは、通常、在胎37～42週でママのお腹から生まれてきます。
これよりもお腹の中にいる期間が短い赤ちゃんを「早産児」（在胎37週未満）と呼びます。

赤ちゃんの体は、ママのお腹の中に40週前後いることで、外の世界に適応する準備を整えます。そのため、早産で産まれてきた赤ちゃんは、体の機能が未熟な場合があります。

オムツの大きさを比べてみよう！

早産児
正期産児
過期産児

在胎37週未満で産まれた赤ちゃん
在胎37～42週未満で産まれた赤ちゃん
在胎42週以上で産まれた赤ちゃん



右：3 kg前後の
赤ちゃん用
（正期産で生まれた
赤ちゃんくらい）
左：500g前後の
赤ちゃん用
（超低出生体重児）

看護師が行うケアの例（詳細は次ページ）

体温管理

生まれたばかりの赤ちゃんは体温調節機能が未熟で、皮下脂肪も少ないため、自分で体温を一定に保つことが難しいです。
体温測定や室温・湿度の調整、衣類や掛け物による調整を行っています。
低体温になることを防ぐために、温度と湿度を設定できる保育器で体温管理を行うこともあります。

ディベロップメンタルケア

赤ちゃんの成長・発達を促すケアをディベロップメンタルケアと言います。誕生まで、暗くて静かなお腹の中にいた赤ちゃんにとって、明るくてにぎやかな外の世界は、少し刺激が強い状況です。
こうした強い刺激は赤ちゃんの成長・発達に悪影響を及ぼすことがあるため、NICUでは、明るさを調節したり、静かな環境が保てるようにしています。保育器カバーによる明るさの調節や、騒音対策など赤ちゃんが落ち着いて過ごせるようにしています。
また子宮内にいた時の姿勢に近づけ、無理のない自然な体勢を取れるように姿勢を整える「ポジショニング」も、ディベロップメンタルケアのひとつです。

感染予防

ママのお腹の中は無菌状態です。
しかし生まれた後の世界は様々な細菌だらけ。
赤ちゃんは免疫機能がまだ十分発達できていないため、弱い菌にも負けてしまうことも...。
赤ちゃんに細菌が付かないように、スタッフは手指衛生を徹底して行い、防護服を着て清潔操作でケアを実施するなど、細心の注意を払って感染予防に努めています。
必要に応じて、ゾーニングを取り入れています。

退院支援

赤ちゃんが自宅に帰ってからスムーズに家庭生活が開始できるよう、ご家族に対して、直接授乳や瓶哺乳、沐浴、お腹のケアなどの練習を行います。
体重が2000gあたりまで増え、哺乳が上手にできる頃を目安に開始しています。
赤ちゃんとお母さんだけで過ごす練習をしていただける母児同室を、必要に応じて退院前に行います。
また、地域の保健所と情報共有を行い、連携をとっています。

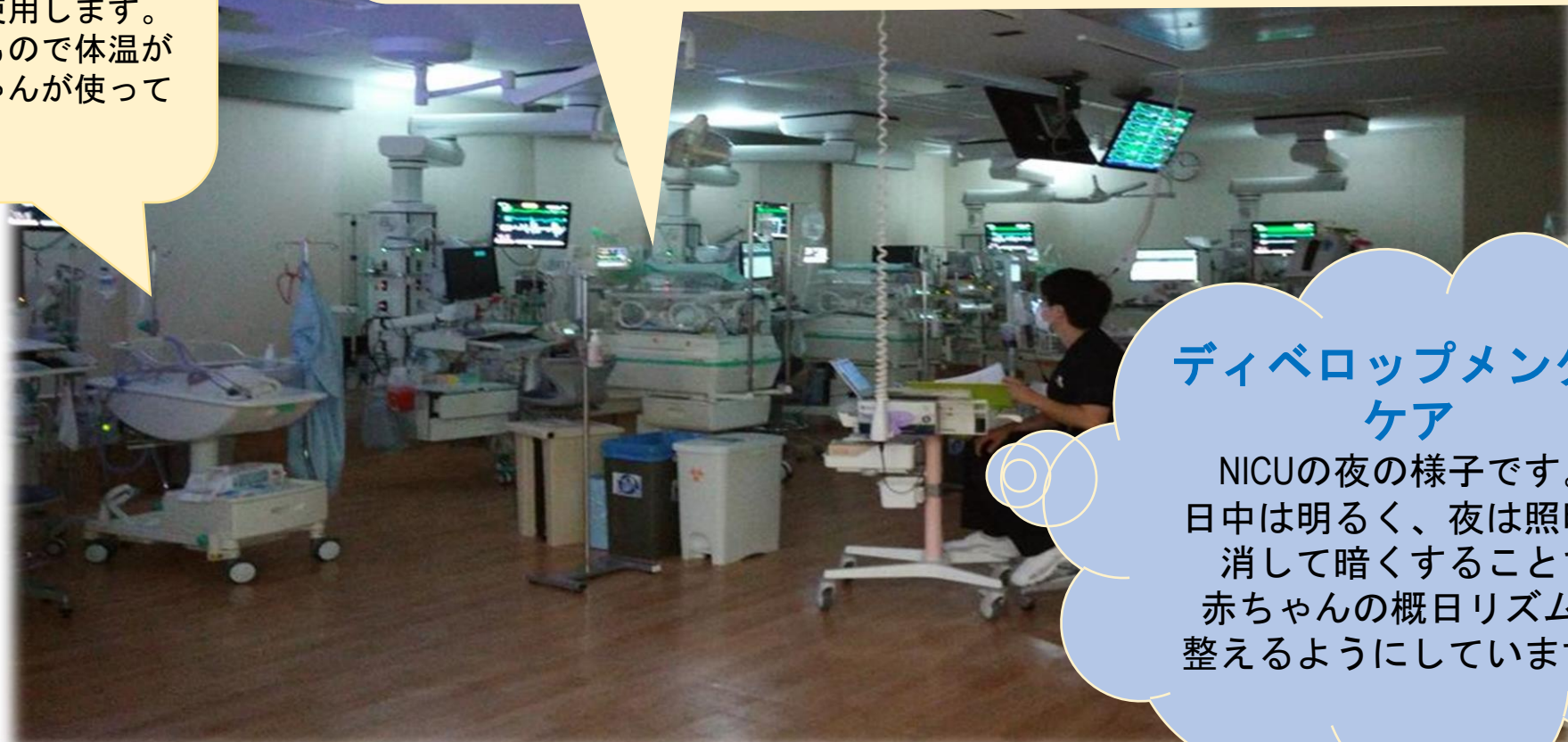
NICUの環境

コット

呼吸、循環、哺乳、体温調節などが安定してきた赤ちゃんが使用します。洋服とかけもので体温が保てる赤ちゃんが使っています。

保育器

内部の温度・湿度、酸素濃度を調整することができるとともに、感染を防ぐことができます。早く生まれて自分で体温を調整するのが難しい赤ちゃんが使用します。



ディベロップメンタル ケア

NICUの夜の様子です。日中は明るく、夜は照明を消して暗くすることで赤ちゃんの概日リズムを整えるようにしています。

インファントウォーマー

保育器とは違って厳密な体温管理はできませんが、ヒーターが備わっているので体温を調節することができます。処置がしやすいという特徴もあります。



GCUフロアの様子です。
退院に向けてパパとママが育児を練習します。
壁のかわいい絵は、京都芸術大学の
学生さんが描いてくれました。

感染対策

WHO手指衛生ガイドライン5つのタイミング

- ①患者に触れる前
- ②清潔/無菌操作の前
- ③体液に曝露された可能性のある場合
- ④患者に触れた後
- ⑤患者周囲の環境や物品に触れた前後

手指衛生や防護具の適切な使用、ゾーニングを実施することによって、院内感染を予防しています。

MRSAとはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌で、免疫力の低い赤ちゃんに感染すると重篤になる可能性があるため感染予防を徹底しています。



手袋・防護服
アイシールド・
マスク

MRSA保菌の
ゾーニング

ディベロップメンタルケア

代表的なケアを紹介します

・カンガルーケア (KC)

お母さん、お父さんと赤ちゃんの肌を直接触れ合わせるように、胸の上に抱っこします。包み込むように抱くことで、赤ちゃんが落ち着き、深く眠ることができます。また、母乳分泌を促すホルモンが出やすくなり、母乳哺育が進みます。



・母乳口腔内塗布

まだお口からミルクを飲んでいない赤ちゃんに、お母さんの搾った母乳をしみこませた綿棒を、お口に含んでもらいます。母乳の匂いをかいだり舐めたりすることで、赤ちゃんがリラックスできる効果があります。また、赤ちゃんのストレス軽減につながるとも言われています。

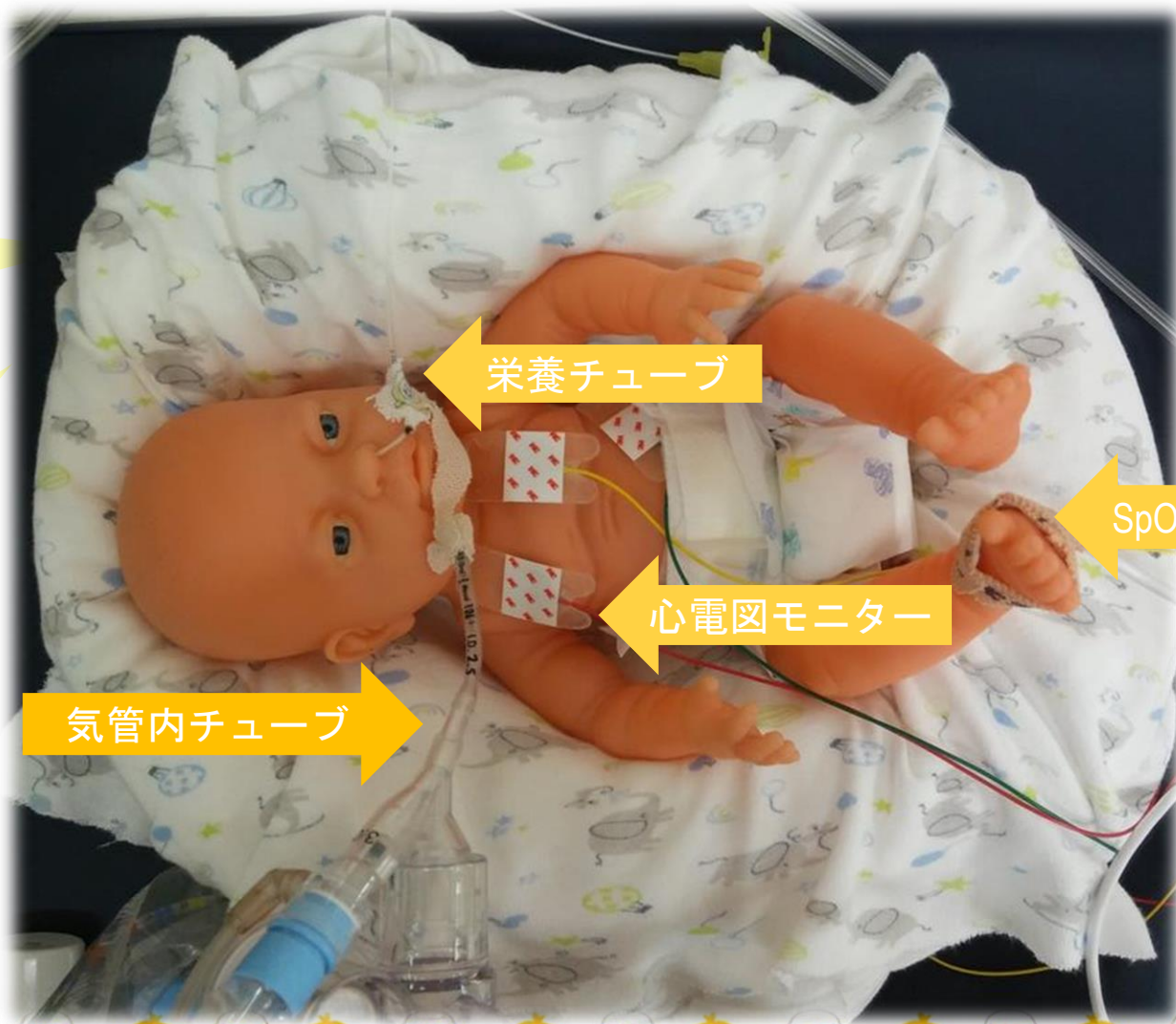
母乳口腔内塗布用の綿棒は、通常よりも大きめを使います (上)



ポジショニング

クッションで囲みを作って、
良肢位を取れるように
ポジショニングをしています。

必要な場合は
点滴や新生児黄疸光線治療器が
付いている場合があります。



栄養チューブ

SpO2モニター

心電図モニター

気管内チューブ

退院前の関わり



• 生活指導

主に直接授乳、瓶哺乳、腹部ケア（肛門刺激、浣腸など）、沐浴を行います。
必要な場合は、経管栄養やストマ交換の手技などが習得できるよう練習をします。

• 地域連携

退院後、地域で親子を支えていけるように、保健所に情報を提供したり、訪問看護師さん
を交えて退院後の支援について話し合いをします。

• 母児同室

退院後の生活や赤ちゃんの生活リズムを具体的に知ってもらえるように、1日から数日間
病院内で親子で生活する練習をします。その後、スタッフと上手くいったところや難しかった
ところを振り返ります。

退院後の関わり

- 電話訪問

退院後 1 週間を目途に、ご自宅に看護師から電話をしています。
お家での赤ちゃんの様子や困っていることなどを伺って、アドバイスします。

- フォローアップ外来

退院後、外来で成長や発達の様子をフォローしていきます。



若手職員紹介

- ・ 田中 幸子さん (仮名)
- ・ NICU・GCU所属、入職2年目
- ・ 主な仕事内容



急性期から回復期まで、それぞれの赤ちゃんの状態に合わせて1日のケアを行っていきます。
また、赤ちゃんとそのご家族を最大限サポートできるように多職種で情報共有し、連携をはかっています。

ex) バイタルサイン測定、採血介助、経管栄養・哺乳、輸液管理、保清（沐浴、洗髪、陰部洗浄など）、腹部ケア、
愛着形成を促す支援（直接母乳介助、カンガルーケアなど）、ご両親への育児指導、カンファレンス

田中さんのある1日

- 8:00 ● 情報収集、カンファレンス
- 9:00 ● 病棟業務（保清・授乳など）
- 13:00 ● 育児指導
- 14:00 ● 他職種カンファレンス
医師、看護師、薬剤師、MSW、心理士
- 16:45 ● 退勤
- 19:00 ● 夕食、お風呂
- 21:00 ● 明日の仕事の準備、勉強
- 22:00 ● 自由時間
- 0:00 ● 就寝



仕事をするうえで大切にしていること

看護の対象となる赤ちゃんは、成人の患者さんとは違い、自分の気持ちを言葉で表現することができません。そのため、赤ちゃんの仕草や表情、泣き方などほんの些細な変化から得られる情報をキャッチして対応していくことが大切だと考えています。

また、NICUは新たな家族の形がスタートする場でもあります。急性期の治療が優先される段階から、ご家族の想いに寄り添ったケアができるよう多職種で情報を共有し、赤ちゃんの成長を共に喜びながら、ご家族からの愛情をたっぷり受けられる環境づくりを大切にしています。

メッセージ

NICUは生まれつき疾患を持った赤ちゃんや、予定日より早く産まれた小さな赤ちゃんが入院されています。繊細で未熟な赤ちゃん達の欲求を汲み取りケアすることは難しく、上手くいくことばかりではありません。常に緊張感はありますが、私たちの行ったケアで赤ちゃん達が心地良く過ごしていたり、元気に退院していく姿にとてもやりがいを感じます。
是非、私たちとNICU・GCUと一緒に働きましょう。